

私の履歴書

釜本 邦茂

⑮

メキシコ五輪準々決勝で日
本がフランスとの対戦を望ん
だのは相次ぐ遠征で欧州のチ
ームには慣れていなかった。

くらはぎを蹴られた。向こう
は私と杉山さんを徹底的に抑
えにきた。前半は0-1で粘
ったが、後半に2つのPKを
含む4失点。ゴールが狭く感
じた。翌日、クラマーさんが
宿舍に現れて「金もいいが銅
の色もいいぞ」。気持ちを何
とか切り替えられた。

ロスも絶妙。2点目は低く強
い横パスを私の足元にぴたり
とつけてくれた。

横山さんがボールをすぐに蹴
ったのは理由がある。宿舍で
他の試合を見ていた時、PK
を止めたGKに喜んで抱きつ
いた選手がハンドを取られ、
再びPKになる珍事があっ
た。その場面が頭に浮かんだ
横山さんとはまさにボールを
遠くに手放したわけである。

3 位 決 定 戦

「個人技はあるけど
チーム力は我々が
上」と長沼健監督も
励ます。日本は18人
のメンバーのうち14
人が東京五輪組。7
年間一緒にプレーし
てきた強みを生かせ
る相手だった。

2対0 死力を尽くし銅

クラマーさん「大和魂見せた」

ユートは何でも入る気がし
た。今の子なら「ゾーンに入
った」とでもいうのだろう。



メキシコとの3位決定戦
でゴールを決める筆者⑥

人生最長の45分の
終わりを告げる主審
の笛が鳴った。長沼
監督、岡野俊一郎コ
ーチ、八重樫茂生さ
んを歓喜の中で胸上
げた。選手村に帰
るとベッドに直行。
1時間ほど熟睡する

1968年10月20日のフラ
ンス戦は日本のベストゲーム
だと思ふ。27分の先制点は私。

準決勝の前にステークを食
べに出かけた。国際サッカー
連盟（FIFA）の一員だっ
たデットマール・クラマーさ
んも一緒に「金メダルはいい
色しているぞ」と我々をおお
る。しかし、22日のハンガリ
ー戦は完敗だった。

20分の先制点も40分の追加
点も杉山さんのアシストだっ
た。1点目は私が2人のDF
の間に割って入るまでの時間
を巧みなボールキープでつく
ってくれた。その後に来たク
ロスの色も絶妙。2点目は低く強
い横パスを私の足元にぴたり
とつけてくれた。

人生最良の日だ。私がここに
着いた時、君たちはベッドに
倒れ込んでいた。倒れるまで
闘った君たちは本当の大和魂
を見せてくれた」

GKがクロスに対するポジシ
ョンを取った瞬間、ゴールラ
イン際から角度のないシュー
トを通した。59分の勝ち越し
点は杉山隆一さんのパスを胸
で止め、頭の中のゴールめが

試合開始すぐに思いきりふ
つてくれた。その後に来たク
ロスの色も絶妙。2点目は低く強
い横パスを私の足元にぴたり
とつけてくれた。

後半はさらに防戦一方で、
足の痛みで私は立っているだ
け。勝てると思ったのはPK
を横山謙三さんが見事に止め
てくれた時だ。止めた直後、

人生最良の日だ。私がここに
着いた時、君たちはベッドに
倒れ込んでいた。倒れるまで
闘った君たちは本当の大和魂
を見せてくれた」

（日本サッカー協会顧問）